2022年度（令和4年度）用

自己点検・自己評価報告書

合同学校関係者評価委員会

2023年6月6日（火）　会議資料

学校法人　水野学園

専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ

自己点検・自己評価委員会

<table>
<tr><td>項目　1</td><td colspan="3">教育理念・目的・育成人材像等</td></tr>
<tr><td rowspan="2">【現状】</td><td>1</td><td>学校の理念・目的・育成人材像は定められているか</td><td>教育理念は、学生ハンドブックに掲載し、年初のオリエンテーションで学生周知が進められている。
各校ごとの3つのポリシー
・アドミッション（入学者の資質）
・カリキュラム（授業構成の指針）
・ディプロマ（評価の観点）
を、HPにて公表している。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>学校の将来構想を抱いているか</td><td>定期的に実施される「経営会議」において、将来構想および検討が行われている。学校を通じ社会人教育の充実を図っていく必要性が話し合われている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【自己点検・
課題・今後の改善方策等】</td><td colspan="2">＜自己点検＞
多校展開に伴い、それぞれ学校間の分野の違いが大きくなってきたため、水野学園で統一していた3つのポリシーを各校で独自に立てることを決定し準備した。現在HPに公式に掲載されている。

＜課題・今後の改善方策等＞
3つのポリシーを捕捉させる形で、各校校長が教育理念を今期夏までに立案する予定である。</td></tr>
</table>

項目　2	学校運営		
【現状】	3	教育理念・目的等に沿った運営方針を定めているか	学校の理念、目的、育成人材像をふまえ、「経営会議」にて運営方針を定めている。 設定された運営方針は、各部署長を通じ、全教職員に周知されている。
	4	中長期的な事業計画を定めているか	学校の事業計画は学校長を中心に定めている。 変動する学生数、学費収入、教室使用状況、支出などを鑑み、人事計画・人件費計画は、10年後までを見据えた事業計画を定めている。
	5	運営組織や意思決定機能は明確化されているか、また有効に機能しているか	理事長、学校長、各部門長による「経営会議」を定期的に実施し、学園運営全般についての情報の共有ならびに意思決定を都度実施している。今年度も集合しての「教職員会議」は見送ったが、メールや動画配信などで運営方針の周知や情報の共有を行った。
	6	人事・給与に関する規定等は整備されているか	整備されている。 人事・給与に関する規定「就業規則」「給与規程」等、自由に閲覧できる環境を整えている。“採用、試用期間、休職等”については「就業規則」に記載され、“昇給、各種手当、賞与等”については「給与規程」にて明確に定め、適切に運用している。
	7	情報システム化等による業務効率化が図られているか	専任の情報システム担当職員を置いている。各部署のデータを共有し、学生サービスおよび業務効率を高めるべく、システムを構築・運営している。 教職員の在宅勤務は引き続き推奨しており、通勤による感染防止に取り組んだ。
【自己点検・ 課題・今後の改善方策等】	＜自己点検＞ 22年度は項目6の「情報システム化による業務効率化」に注力した。ZOOM使用環境などの学内インフラ、また出席率、取得単位状況などが保護者も確認できる学生WEBサイトの充実、授業在宅配信の環境改善などに努めた。 ＜課題・今後の改善方策等＞ 少子化の傾向に伴い、中長期計画や学生数確保などについて広報活動と連動した組織体制が求められる。		

項目　3	教育活動		
【現状】	8	各コースのカリキュラムは目標が設定されているか、また体系的に編成されているか	各コース、学年での教育到達レベルが設定されており、そこに到達するためのカリキュラムが体系的に編成されている。カリキュラム内容については日々活発に意見が交換されており、2022年度も見直しを行った。 各科目について「授業のねらい」「到達目標」「授業の計画展開」「評価方法」などで構成される授業シラバスを作成し、公開している。
	9	教育方法は適正か、また授業評価の実施・評価体制はあるか	全学科において「社会実感プログラム」と題し、より現代社会の変化や業界の現状に対応したカリキュラムを刷新及び導入を行った。 また授業評価に関しては、学生による授業評価アンケートを9月に実施し、学生の評価を教員にフィードバックを行った。
	10	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	外部アドバイザーとの協力により学生育成目標に向けた相談がなされている。
	11	教員組織体制が確立しているか、また教員間の連携・協力体制を構築しているか	学校長以下、教育部長、学科長が教員組織を取りまとめており、組織図を共有して指揮命令系統を明確にしている。カリキュラムの交流、学校行事ごとの分科会などを通じて、教員間の連携・協力体制は整っている。
	12	成績評価や進級・卒業認定の基準は明確になっているか	学則にて明記されており、学生ハンドブックにて周知している。進級・卒業認定は、科目履修状況、出席率、授業態度、成績を総合的に判断し、学校長以下教職員の判定会議にて認定されている。
	13	資格取得の指導体制はあるか	学生および教員自身の資格取得に際する指導体制は整っている。 「貴金属装身具技能検定 」の取得に向けて、対策ゼミを放課後に実施。希望者64名(3級34名、2級29名)の指導に当たった。

【自己点検・ 課題・今後の改善方策等】	＜自己点検＞ 常勤講師のキャリアは高く、ベテラン揃いで授業計画やその運営に関しては問題はない。コロナも落ち着いてきており、学校教育は活性を帯びてきた。 ＜課題・今後の改善方策等＞ ベテランが揃う反面、平均年齢が上がり教育のフレッシュさや、新しい教育のあり方を構想する創造性が求められる。

項目　4	学修成果		
【現状】	14	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2023年3月31日現在、全学科平均の求職者就職率は97%（昨97.7%）だった。 例年と変わらない結果を残すことができた。
	15	資格取得率の向上が図られているか	ジュエリーコースの「貴金属装身具製作技能検定」の受験結果は、3級合格率27.8%（昨61%）、2級合格率38.7%（昨69%）だった。東京都の合格率はそれぞれ29.3%、41.7%だった。 ウォッチコースの「時計修理技能士検定」については、3級合格率60%（昨68%）、2級合格率76.5%（昨50%）だった。東京都の合格率はそれぞれ62.5%、60.7%で、2級で平均を大きく上回る結果となった。
	16	在校生・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	在校生に対しては外部の各種コンテストや発表会・展示会などに参加することを奨励し、卒業生に関しては、同窓会や教員、教務進路職員との関係を通じ、その活躍の把握に努めることとしている。 在校生・卒業生の実績は「入学案内」やホームページなどで常に紹介し、在校生の学習意欲の向上や、卒業生への情報発信、入学検討者等への学校PRに役立ている。

【自己点検・ 課題・今後の改善方策等】	＜自己点検＞ 評価レベルなどではかる学習成果や成果物については大きな変化はなく、協業企業からの評価も高い。 ＜課題・今後の改善方策等＞ 学生の資質が変わってきている分、また業界が変わってきている分、今までの技術力中心の学習成果に加え、途中のプロセスを大事にする多角的な評価基準が必要になる。

項目　5	学生支援		
【現状】	17	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	整備されている。 教員・教務と進路が連動することで、より良い学生指導を行っている。進路指導についてはキャリアガイダンスを卒業前年度11月から実施し、業界知識や業種職種研究、求められる人材像の説明および自己分析などを指導した。企業就職希望者に対しては、1月以降に就職活動のための具体的なノウハウ指導を行うと同時に、専用のWEBサイトにおいて求人の公開を行った。オンラインを利用したリクルートイベントを行い、多くの内定者を出すことができた。
	18	中途退学者が継続して学びたい場合の支援体制、または代替えコースが設置されているか	ジュエリーの途中退学者に対しては、キャリアスクール（附帯教育、昼夜、時間登録制）への転校を勧めている。 一部の退学者は、授業単価も割安で、提出期限のない課題を自分のペースで学べるこのコースを選択する場合もある。 ウォッチは4月開講のキャリアスクール（夜）を運営しており、3月で進級不可等による中途退学の場合は、同様にキャリアスクールでの再受講を促している。 シューズ・バッグのコースには再受講コースが存在しない。 専門課程での再受講を希望した場合、途中退学・除籍者であっても、再入学の資格を認めており、試験等で合格すれば、再入学を認めることにしている。2022年度は、ウォッチを退学しジュエリーに再入学する学生が1名いた。
	19	学生相談に関する体制は整備されているか	整備されている。 従来通りクラス担任と学科担当教務の連携による学生の就学指導は良く機能している。また、学生が学校長に直接意見をメールできる制度の運用などを通し、より細かい学生の相談体制を構築している。
	20	学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか	高等教育修学支援新制度（学費無償化）、日本学生支援機構の公的奨学金、家計の急変・転科による就学年数延長者に対しての　水野学園独自の授業料減免制度などを設置運用している。また、学費の分納、延納などに対しても、学費相談担当者が学生個々の状況に応じて対応している。
	21	学生の健康管理を担う組織体制が整備されているか	学校保健法に基づき、5月に学内において全学生の健康診断を実施している。診断結果が悪かった学生には、健康管理について個別に案内・指導している。また、学内においての学生の急な傷病に対しては、保健室やAED装置の設置をはじめ、救急箱や緊急搬送医院の一覧マニュアルなども完備している。
	22	保護者と適切に連携しているか	在校生、保護者が閲覧できる「学生サイト」にて、出席率、単位取得状況、教育内容を確認できる。また、本年も水野学園全校合同で、学科ごとの授業成果を学生が発表する「プレゼンテーションズ」を開催。保護者にもオンラインで配信した。
	23	卒業生への支援体制はあるか	卒業生は全員水野学園同窓会の終身会員として登録され、転職相談や進学等についての支援を受けることができる。 また、優秀な卒業生に対しては、「同窓会賞」として、独立開業や再進学のための報奨制度も制定されている。

【自己点検・ 課題・今後の改善方策等】	＜自己点検＞ 上記の通り、学生支援体制は概ね整備されていると評価している。 ＜課題・今後の改善方法等＞ 学生の健康管理において、メンタル面の相談増に伴ない、対処に困るケースが増加傾向にあり、教職員のみでの対応に限界を感じるようになった。 メンタル面のケアを実施すべく、2022年度から、臨床心理士資格を有する先生と契約し、希望者にはオンラインでのカウンセリングを行っている。

項目　6	教育環境		
【現状】	24	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	施設・設備の改修／修繕／交換／導入は年度ごとで計画的に整備をしている。 各教室ごとの責任者を決め、常に点検している。教室以外の施設として、図書室・学生ホールなどの環境を整えており、年1回の学生アンケートの実施を活用し改善に努めている。学生への伝達事項は、引き続き学生アプリやGoogleClassroomを活用することで、スムーズに行えている。
	25	学外学習やインターンシップなどの教育体制を整備しているか	本年度は学外活動を多くする事が出来た。また、各業界企業の協力でインターンシップ制度（希望制）を取り入れ、多くの学生が参加した。 ［2022年度実績］ ウオッチ=リシュモン ジャパン　カスタマーサービス見学 ウォッチ=スウォッチグループジャパン　カスタマーサービス見学 ジュエリー＝国際宝飾展（IJT）、ミネラルフェアー見学 シューズ＝ムーンスター加硫製法研修（オンライン） シューズバッグ＝ヒロカワ製靴工場見学、リーガル本社見学、栃木研修旅行（タンナー工場、金子ヒール）、浅草・浅草橋資材屋見学
	26	防災に対する体制は整備されているか	学生対象／教職員対象の2種類の防災訓練を毎年実施。教職員対象の防災訓練においては、災害発生直後から宿泊するまでを想定した実践的な訓練を行っている。 防災マニュアルの作成・完備や緊急地震速報に対応したシステムの設置、5日分の非常食を完備するなど、防災体制を整えている。 コロナ禍3年目においては、前年同様、「手指用消毒剤」「設備用消毒剤」「手洗い用石鹸液」などの消耗品や、「非接触体温計」「サーモカメラ」「抗原検査の実施」により学内の感染拡大防止に努めた。

【自己点検・ 課題・今後の改善方策等】	＜自己点検＞ 学外学習やインターンシップなどに力を注いだ。学生の学外での学び体験に加え、教職員と企業間の対話を通した繋がりが密接になった。 ＜課題・今後の改善方策等＞ 学外学習やインターンシップのありかたに相互的な意見交換制度をとりいれ、より専門学校のあるべきインターンシップの形を模索する。

項目　7	学生の募集と受け入れ		
【現状】	27	学生募集活動は、適正に行われているか	募集案内の記載内容については学生が明瞭に理解できるよう充分に配慮して作成している。募集内容は、稟議を経て理事長、学校長の決裁を受けて作成されているものであり、学内でのチェック体制は整備されている。資料請求者、入学志願者の相談内容はデータ管理され、個人情報に留意しつつ、適切な対応ができる体制が整っている。
	28	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	AO入学については全員と面接、推薦入学および一般入学については入学願書・調査書の内容により、どちらも本校で学習することに対する意思の確かさ、粘り強く物事にとり組める姿勢を出願者の選考基準としている。留学生については全員と面接を実施し、日本語能力・学費等支払い能力を総合的に判断している。
	29	学納金は妥当なものとなっているか	本校が提供する教育内容、施設等や他校の状況、社会全体の経済状況等を踏まえ、妥当な金額であると考えている。金額および支払時期については募集要項に明記している。
【自己点検・ 課題・今後の改善方策等】	2023年4月入学者の募集状況。ジュエリーコース微増、ウォッチコース昨年並、シュー＆バッグコース減少。 留学生は予測ほどの戻りがなく、コロナ前の50%（昨年30%）程度。高校が大学進学へさらに舵をきったため、各コース共通して体験入学や説明会への参加者数が減少の傾向。 今年度は、特待生制度や一般大学受験の併願など新規制度を設置。指定校の高校数増加、全国各地での説明会開催などさまざまな対策で、定員確保にむけた募集活動を実施している。		

項目　8	財務		
【現状】	30	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	高等教育修学支援新制度や学園独自の奨学金制度等により、入学者の確保や休退学などの離脱者を減らすことで安定的な収入を確保し、健全な財務状況を維持している。将来5年程度の見込みについて随時分析している。
	31	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算は、前年度末に翌年の予算案を作成し、理事長・学校長の決済を受けた上で、評議委員会・理事会の承認を受けて決定している。本部各部門の責任者は、承認・決裁を受けた予算に基づき、各部門の年度計画を定め、理事長、学校長の承認を受けて、予算を管理・執行している。
	32	財務について会計監査が適正におこなわれているか	顧問税理士の指導をうけながら適正な会計処理を行っている。 2022年度も5月に、監事2名による会計監査を行った。
	33	財務情報公開の体制整備はできているか	財務情報は学園ホームページにて公開している。 関係者より財務諸表等の閲覧請求があった場合は、閲覧規定に則った対応ができる体制を整えている。
【自己点検・ 課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、適正に管理・運営されていると評価している。		

項目　9	法令等の遵守		
【現状】	34	関係法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか、また個人情報保護に関して十分な対策が練られているか	給与規程、個人情報保護規程、文書保存規程など、各規程に則り、法令順守についての総合的な管理にあたっている。前述規程等は、常時閲覧できる場所に保管し、適宜確認・利用できる環境を整えている。 顧問弁護士と契約しており、随時相談可能な体制を整えている。 個人情報保護に関しては、個人情報保護規程を全教職員へ説明し、この規程に則って運用している。また、マイナンバーについても、特定個人情報取扱規程を策定し、適正に運用している。
	35	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価委員会を設置し、問題点の改善に努めている。
	36	学校関係者評価委員会を実施しその結果を公開しているか	毎年「自己点検・自己評価報告書」を元に、学校関係者評価委員会を開催し、その結果をホームページ上で公開している。
	37	教育情報の公開は適正に行われているか	前述の各報告書のほか「学校情報」を各年度ごとに更新し、ホームページ上で公開している。

【自己点検・ 課題・今後の改善方策等】	例年通り、適正に実施されていると評価してる。 学校教育法、私立学校法、学校保健法、税法等の法令を遵守して学校運営が適正に行われている。 自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価委員会議事録、学校情報は、毎年ホームページにて公開することとしている。

<table>
<tr><td>項目　10</td><td colspan="3">社会貢献</td></tr>
<tr><td rowspan="2">【現状】</td><td>38</td><td>学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</td><td>卒業制作展と同時に「卒祭」（学園祭）を行い、外部を含め4日間で約1500名の来場者があった。

≪技術講習会・社員教育を実施した関連団体・企業様一覧≫
日本時計輸入協会様／LVMHウォッチ・ジュエリージャパン様／日新時計ホールディングス様</td></tr>
<tr><td>39</td><td>学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</td><td>業界人教育、地域産業興進、資格試験問題集作成、アップサイクルイベント協力など様々な企画で社会貢献に努めた。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【自己点検・
課題・今後の改善方策等】</td><td colspan="2">＜自己点検＞
特にウォッチメーカーコースで日本時計輸入協会主催の機械式時計講習会など、業界人向け教育という形で社会貢献している。
再生可能エネルギーに切り替えてはとのご意見をいただき導入を検討したが、設備投資やランニングコストの問題から見送ることとなった。

＜課題・今後の改善方策等＞
2023年度は全学に「実感プログラム」というタイトルで通常授業の一部を位置付け、直接的間接的に社会貢献を行なっていく予定である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>項目　11</td><td colspan="3">国際交流</td></tr>
<tr><td rowspan="2">【現状】</td><td>40</td><td>留学生の受入れ・在籍管理等において適切な管理体制が整備されているか</td><td>教務進路課内に「留学生センター」を設置し、入学相談室留学生担当と連携のもと、在学する全留学生の在留資格管理をはじめ、資格外活動（アルバイト）状況の把握などに努めている。
適切な管理は継続されており、2022年度も東京出入国在留管理局より「適正校」の認定を受けている。</td></tr>
<tr><td>41</td><td>グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みが行われているか</td><td>今年度はオンラインのセミナーが中心となったが、対面のワークショップも開催し、国際的な視野・感性を養うことができた。
2022年度の実績は以下の通り。
〔ロシア〕オレグ・ミトロファノフ氏　ワークショップ
〔オランダ〕リートフェルト大学　ソーニャ・ベーメル氏　セミナー
〔韓国〕川島　謙二郎氏　セミナー
〔イタリア〕ダイアン・ベッカー氏　作品講評会
毎年恒例となっている海外大学の交換留学については2022年度も中止とした。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【自己点検・
課題・今後の改善方策等】</td><td colspan="2">＜自己点検＞
英語教育、交換留学生の受け入れ準備などを行なった。また、コロナ禍で難しい中、日本在住美術教育者の招聘などを進めグローバルな教育環境を保持した。

＜課題・今後の改善方策等＞
本格的に英語教育を導入する予定である。また、美術・デザイン史・マーケティングなどを通してグローバルな教育の機会をオンラインを通じて充実させていく予定である。</td></tr>
</table>